



国際交流の特色

ガイゼンハイム大学は、2013年1月に、本学の協定大学であるラインマイン大学より分離独立しました。キャンパスのあるガイゼンハイム市は、フランクフルト近郊のライン川中流域にあり、ドイツワインの主要産地ラインガウ地域の中心です。「ブドウ栽培・醸造学」、「国際ワイン学」、「景観造園学」、「園芸科学」、「飲料技術」などの学士プログラム、「醸造学」、「ワイン経済学」、「ヴィニフェラユーロマスター」、「飲料科学」、「園芸科学」などの大学院プログラムが開設されており、実践的な教育研究が行われています。



交流実績（令和4年度～令和6年度）

年度 受入・派遣	R4	R5	R6
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）	0	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	0	0	0



大学院生の短期訪問



短期留学生の受入

教員からの声

世界的にも広く知られるブドウ・ワイン研究所を有するガイゼンハイム大学では、ブドウ栽培学や醸造学、園芸科学などの実践的な教育研究が行われています。本学とは、学生の短期訪問や短期留学の受入、研究者の交流が進んでいます。

皆さん、ヨーロッパの伝統と最先端技術が融合するガイゼンハイム大学での滞在を体験してみませんか？



望岡 亮介（農学部 教授）

学生からの声

2012年10月から5ヵ月間、大学院農学研究科の特別聴講学生として滞在しました。この間、英語で開講されている授業科目や害虫生態と防除についての研究科目を履修するとともに、留学生センターの日本語授業を受講しました。また、学外フィールド活動として、盆栽の主産地である高松市国分寺町で、生産者から生産技術や展示流通について実践的な指導を受けることができ、有意義で充実した留学生生活を過ごすことができました。

フェリックス エイセルロ
(2012年 農業研究科特別聴講学生)